

薔薇色の雲

山下雅人



やました・まさと 「短歌人」同人、現代歌人協会会員。1955年生まれ。79年中央大学文学部卒。85年「現代短歌における“私”の変容」で第3回現代短歌評論賞受賞。歌集『水上の雅歌』、評論集『世紀末短歌読本』、『久々 湊盈子の風景』など。

地球儀をゆうらり廻す この星でたったひとりで呼吸している

赤道は君のからだのどのあたり 触れてゆくなり発火点まで

黄のあやめありのままなる黄のあやめ ほどよき距離を保ちがたしも

青春は晩年である晩夏光 徹頭徹尾風に吹かれて

一億年前の地球の空と海、あなたの瞳に漣さざなみがある

微熱去りし君の肢体を包みゆくアルミ箔のような秋のそよかぜ

俺という小さな廃墟を棄てにゆく新宿ゴールデン街路地裏あたり

薔薇色の雲に触れたるてのひらが手枷、足枷、首枷を解く

生きてよし死にてもよしとぞ木洩陽のまだら曼荼羅世界を歩む

地球テラに射す光の量を思うべしラッシュアワーにあなたはひとり